

学力向上

項目	生徒	保護者	教職員
授業に意欲的に取り組む	3.2	3.1	3.0
授業がわかりやすい	3.5	3.0	3.1
生き方や職業について真剣に考えている。	3.2	2.8	2.7
家庭学習をしている	2.9	2.8	2.5
人権教育の推進	3.4	3.0	2.7
特色ある教育活動	3.2	3.0	2.8

健全育成

項目	生徒	保護者	教職員
友だち関係が良い	3.6	3.3	3.2
さわやかなあいさつ	3.2	3.1	2.7
ルールを守っている	3.2	3.2	2.8
TPOに応じた言葉遣い	3.1	3.1	2.7
学校行事への取組	3.6	3.4	3.2
部活動への取組	3.4	3.2	2.9

学校環境

項目	生徒	保護者	教職員
掲示物が充実している	3.2	3.1	2.8
安全で環境は整備されている	3.3	3.3	2.8
清掃が行き届いている	3.0	3.1	2.5
迅速で適切な教育相談	3.3	3.1	3.2
通信やHPでの情報提供	3.3	3.0	3.5
給食がおいしい	3.1	3.2	2.8

- 授業への取組やわかる授業については高い評価。
- 学習面のさらなる向上、家庭学習の習慣化が最大の課題
- 家庭学習時間の確保と生活習慣の改善が課題。
- ICTの活用や目標を持った自学ノートの推進。

- 全体的に落ち着き充実した学校生活を送れている。
- 友人関係やあいさつ、規範意識は良好である。
- 学校行事や部活動、生徒会活動への取組は高い評価。
- 自己有用感や自尊感情を育てながら、生徒主体の教育活動を展開する。

- おおむね良好な結果である。生徒保護者ともに全項目3.0である。
- 環境整備と美化活動を推進する取組を行う。
- 教職員の3.0未満の項目について指導を継続する。

【総括】3年間の経年統計を見てみると、生徒、保護者、教職員ともに、徐々に評価数値が高くなっている。何よりも、生徒による評価数値が高くなってきたことは大変喜ばしいことで、平成28年第2回学校評価アンケートでは、「家庭学習の習慣が身についている」が2.9以外は、すべて3.0以上となった。これは、生徒自身が自分たちの手で学校を良くしたいという現れであり、意識と行動が変容してきた証左であろう。保護者アンケートでは、「家庭学習の習慣が身についている」と「将来の生き方や職業に真剣に考えている」が2.8以外は、すべて3.0以上となった。教職員の評価は、20項目中6項目以外は3.0未満であったが、指導する立場としては当然のことであり、低い項目が今後の課題であり指導の重点事項となる。「家庭学習の習慣化」「正しい言葉遣い」「感謝の心」「清掃活動」の項目である。

- 改善の視点
- 1 全体的に支持的な評価となっているが、現状に満足せず、更に向上する。
  - 2 課題は「家庭学習の習慣化」と「授業改善」である。家庭学習と授業のサイクルを確立する。
  - 3 学習習慣と生活習慣はリンクしているので、保護者との連携を強める。特に、長時間のメディア依存の脱却を図る。

実践事項

- 1 学力向上：「めあて」と「振り返り」の明示  
家庭と連携した家庭学習の定着
- 2 健全育成：道徳教育と体験学習の充実  
生徒会活動の活性化、生徒主体の教育活動
- 3 学校環境：安全、安心を与える環境改善  
清掃指導の改善と刑事教育の充実